

平成22年度

山口県立大学

看護栄養学部客員教授特別講義

—— 食品成分から 血管病 “特効薬” の発見 ——

6月28日（月）10:20～11:50 看護棟F204教室



- ・医学博士
- ・米国 ECFMG 取得
- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会認定循環器専門医

山口大学大学院医学系研究科 応用医工学系専攻
生体機能分子制御学分野（旧生理学第一講座） 教授

講師 ^{こばやし}小林 ^{せい}誠 氏

■プロフィール（平成22年4月現在）

- 1980年 九州大学医学部医学科卒業 同年同大学循環器内科入局
- 1986年 米国ペンシルベニア大学ペンシルベニア筋肉研究所 助手
- 1988年 同大学生理学 助教授
- 1989年 米国バージニア大学生理学および内科学（循環器病学）助教授
- 1990年 九州大学医学部心臓血管研究施設（臨床細胞科学部門）助教授
- 1996年 山口大学医学部医学科生理学第一講座 教授
（組織改編を経て2007年より現職）

◇講演にあたって

脳卒中や心筋梗塞などの血管病対策は、日本においても重要な課題となっています。その血管病の主な原因には、長年経過して発症する「動脈硬化」と「血管の異常収縮」があります。血管の異常収縮は、突然血管を構成している筋肉（平滑筋）が、痙攣様収縮（血管攣縮）を起こすために血液が流れなくなる状態で、近年では、血管病のリスクがないと思われる人においても急死する例が増加しています。

小林教授らの研究チームでは、この異常収縮の原因物質を発見し、さらにこれを引き起こす一連のメカニズムを封じる効果が、いわしなどの青魚に多く含まれるエイコサペンタエン酸（EPA）にあることを突き止めました。その後も、種々の食品から血管病の“特効薬”成分を次々と発見され、これら食品成分による血管病の予防を推奨しています。また最近では、注射薬の開発にも成功され、予防と治療の両面から血管病撲滅を目指して挑戦を続けておられます。

ご講演では、食品成分から“特効薬”開発に至った経緯や EPA の高次構造による血管病抑制作用の違い、さらには、病的な細胞内メカニズムにおける細胞膜コレステロールの重要性など、最先端の予防や治療について興味深い内容が学習できます。めったにない機会ですのでぜひ受講してください。



お問い合わせ先： 山口県立大学 看護栄養学部栄養学科 水津久美子

会場地図は、裏面をご覧ください。

電話 (083)928-2565 メール suizu@yamaguchi-pu.ac.jp